

第3学年 研究の概要

1 研究テーマ

表現力・コミュニケーション力を高める指導法の工夫

～ 国語科 「じゅんじょがわかるように話したり聞いたりしよう」の単元を通して～

2 育てたい力

◆表現力

- 語いを広げ、より豊かな文を書く力
- 自分の考えを相手に伝えるように話したり、わかるように発表したりする力

◆コミュニケーション力

- 話の大事なことを落とさずに聞く力
- 話し手に反応しなら聞いたり、不明な点を質問したりする力

3 研究の視点と手だて

〔視点1〕国語科の基礎基本の定着を図る指導の工夫

- ワークシートの工夫と活用
 - ・自分の考えを持たせ、興味、関心を高め学習に取り組ませるワークシートの工夫
 - ・自分の思いや考えをまとめにくい児童に対する補助用ワークシートの工夫
 - ・スピーチのチェックカードや、自己評価カードの活用

〔視点2〕授業前と授業後の変容をみる手だての工夫

- 推敲前と推敲後の比較をし、学習することによっての変容の分析
(スピーチのチェックカードや、自己評価カードの活用によって自分の変容に気づかせる)

〔視点3〕日常的な場での活動の工夫

- 日記の継続とその内容の工夫
- 朝のスピーチでの発表、聞き合う活動の定着

4 研究計画（一人一研究授業の実施月・授業者・教科・単元名等）

国語「道案内をしよう」 ～6時間扱い

(9月1～4, 7～9日)

同一単元、同一指導計画のもと
導入～中間発表～発表

のそれぞれのつながりの上で実践授業を行う。

3 学年 成果と課題

3 学年では、国語科の「話すこと・聞くこと」の学習を通して、表現力やコミュニケーション能力を高めていきたいと考えた。「道案内をしよう」（6 時間扱い）の単元を学年研究とし、指導計画の流れに沿って各学級が学級の実態を考慮しつつ授業実践を行い、各時間の進め方を省みながら次時へ生かせるよう、学年として話し合いながら実践を重ねることができた。話すこと・聞くことは、毎日の学習理解にもつながっていき、また人間関係にも必要不可欠なものであるから国語だけにとどまらず生活全般においても意識して指導を進めてきた。そこから次のような成果と課題が得られた。

【視点 1】国語科の基礎基本の定着を図る指導の工夫

○ワークシートの工夫と活用

「話すこと・聞くこと」の学習単元ではあるが、発表に抵抗のある児童に対しての手立てとした。

まず第 1 段階として、ワークシートに書き、それをもとに話せば見通しが持て、また自信を持つことにつながるだろうと考え活用した。第 2 段階としては、キーワードを手掛かりにメモを取りそれをもとに相手に話すという活動にのぞませた。第 3 段階では、キーワードの手掛かりだけでも分かりやすく説明できるようにと進めた。そのことで、道案内の大切なポイントが明確化され、多くの児童が自信を持って説明したり、積極的に話す活動に取り組んだりすることができた。

●ワークシートを用いることで話す活動の活発化は図れたが、書く活動が主とならないよう、意識して指導案を考えることが大事であるということが分かり、教材研究の段階でずいぶん思考錯誤してしまった。最初の段階で、中学年としてどのような力を身につけさせなければならないか、というイメージをしっかりと持つことが必要であった。

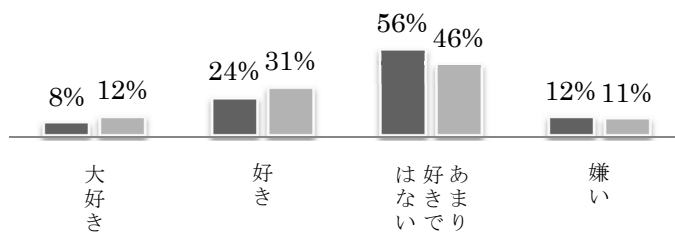
●話し合う場面を多く確保するために、ペアやグループ学習の形態を取ったが、一人ひとりの話し方に関する評価の場面を工夫して作ることと、評価の観点をはっきりさせておくことを大事にしなければならないことがわかった。

【視点 2】授業前と授業後の変容をみる手だての工夫

○本時の学習をすることによってできるようになったことをワークシートを見て比較したり、毎時間の記録を通して単元全体で学んだことの振り返りをするることによっての自分自身の変容に気づくことができた。このことは自分を肯定的に見つめ直し、友達の良さに気付くことへと広がりを持たせることへとつながる活動となった。

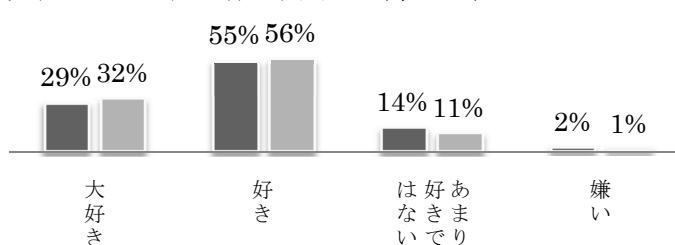
《児童の変容（意識調査から）～9 月・1 月の比較～》

みんなの前で発表するのは好きですか ■ 9 月 ■ 1 月



自分の知らないわからないことがわかる・友達の思いが知れる・おもしろい、といった理由だけでなく、**他との関わりが広がり**、・はきはきいう人を見て自分もこういう風にとお手本になる・自分との違いは何か・ちがう意見や自分に足りないものが分かる、など**意識の高まりを感じる回答が増えてきた。**

発表している人の話を聞くのは好きですか ■ 9 月 ■ 1 月



自分の言いたいことや考えを知ってもらえる・心の中がすっきりする・拍手してもらえる・納得してもらえるとうれしい・発表の練習になる・間違っても勉強になる、といった**充実感を感じる児童がわずかではあるが増え**、緊張する・はざかしい・まちがえるのが心配・話すのが苦手、とする児童が減った。

【視点 3】日常的な場での活動の工夫

○日記の継続を年間通してどの学級でも指導してきたことにより、長文を書くことへの抵抗をなくし、物事を見つめる目を育て、作文の力を高めることにつながった。また、朝や帰りの会でのスピーチや感想発表、友達の発表を聞き合う活動を多く設定することにより、どの教科学習においても「話すこと・聞くこと」を意識して行動するようになってきている。

●場や相手に応じた言葉遣いの会話ができるようにさらに継続していく必要がある。